

学校だより

平成24年12月発行 鳥羽商船高等専門学校
広報・公開委員会「広報誌専門部会」
三重県鳥羽市池上町1番1号 TEL 0599-25-8013



海学祭



- 校長式辞
- 学生活動の紹介
- 就職・進学
- 近藤真琴先生の掛軸
- 国際交流
- 学校通信
- 進学特集

校長式辞

平成24年度卒業式・商船学科・専攻科（海事システム学）

校長 藤田 稔彦

本日ここに多数のご来賓ならびに

保護者の皆様ご出席のもと、平成24年度鳥羽商船高等専門学校「商船学科卒業証書授与式」ならびに専攻科「海事システム学専攻修了証書授与式」をとり行い、これからわが国の産業や科学技術を担っていくフレッシュな人材を社会に送り出すことができますことは、本校教職員・在校生一同にとりまして、この上ない喜びであります。

本日、商船学科を卒業された航海コース17名、機関コース13名の皆さんは、5年6ヶ月の高等教育の課程を修了し、準学士の称号を授与されました。また、専攻科海事システム学専攻を修了された2人は、商船学科を卒業後、この2年間でさらに高度な専門知識を幅広く修得され、近々学士の称号が授与される予定です。卒業生・修了生の皆さんの今日に至るまでの努力を称えますとともに、皆さんを物心両面から支えて来られた保護者・ご家族の皆様にも、

心からお祝いを申し上げます。

商船学科を卒業された皆さんは、本校キャンパスや鳥羽丸における4年6ヶ月の席上課程の後、大型練習船で1年間に及ぶ厳しい実習・訓練を経験し、いっそう逞しくなられました。また、本日専攻科を修了された2人は、この実習・訓練の経験を活かし、それぞれの専門分野において研究等に熱心に取り組んで来られました。このような経験は、普通の高校や大学では得られない貴重なもので、今後の長い人生において必ずやプラスになると信じます。

皆さんの卒業後の進路は、多くの方が航海士あるいは機関士として外航海運やフェリー会社に就職されますが、港湾、倉庫あるいはビルの管理会社、造船所など、専門分野に深く関係した陸上企業に就職される方もおられます。また、さらに勉学を重ねるべく、本学専攻科に進学される方や、関連の国立大学に編入学される方もおられます。

最近高度情報化社会となり、社会のボーダーレス化、経済のグローバル化が急速に進む中で、中東諸国では過激なテモや内戦の勃発、わが国では海を挟んだ近隣諸国との間での領土の問題など、不安定な情勢が続いています。また、わが国は東日本大震災からの復興や原子力発電の問題も抱えています。皆さんは、産業界とくに海事関連産業において、深い知識と広い視野を持ち、リーダーシップを備え、かつ日本人としてのアイデンティティをしっかりと持った国際人としての活躍が期待されています。

本校には、「ジェントルマンシップ、レイディシップ豊かな人間であること」、「創造性豊かな技術者となること」、「国際性豊かな社会人となること」という三つの大きな教育目標があります。どこまで達成できたかは人それぞれ異なると思います。卒業後も皆さんはこの三つの目標を念頭に置き、各自新たな目標を立て、その目標達成に向けて頑張ってくださいと思います。目標は高いほどよい。ただし、行動は迷うことなく細心に一步一步進めるのがよいと言われています。

本校は、明治14年創設の鳥羽商船を前身とし、130年以上の長い

歴史と伝統のある学校です。ご承知のとおり、本校の卒業生は、国内外のさまざまな分野で活躍していただきます。今後、皆さんは本校で学んだことを誇りとし、自信をもって力強い人生を歩んで下さい。

皆さんのこれからの長い人生航路の安全と活躍を心よりお祈りして式辞と致します。



平成24年度
商船学科航海コースの進路について



商船学科航海コース主任

石田 邦光

商船学科航海コースの平成24年9月卒業生数は17名で、就職が15名、進学が2名となりました。海運会社からの求人は、企業数及び求人数共に平年とそれほど大きく変わっていません。就職先の内訳は次の通りです。外航海運では、日本郵船に1名、川崎汽船に1名、NSユナイテッド海運に1名が採用されました。近海・内航海運では、東海汽船に3名、鹿児島船舶に1名、津軽海峡フェリーに1名、伊勢湾マリンサービスに1名が採用されました。また、石油・天然ガスの探鉱・開発に係る海洋掘削を主力事業とする日本海洋掘削に1名が採用されました。外航日本人船員確保・育成スキームにも2名が合格しました。本年度は陸上職に就いた者もあり、東洋信号通信社(船舶情報技業)に1名、美須賀海運(船舶管理会社)に1名、日之出郵船(船舶管理会社)に1名が採用されました。進学は、推薦による大学編入学で神戸大学海事科学部に1名が合格しました。また、本校の海事システム学専攻に1名が入学しました。

外航海運、内航海運共に船員が不足していることは確かですが、全国の船舶職員養成機関における海上就職希望者を全て受け入れるだけの求人数がないのも事実です。しかしながら、機関コースへの求人は航海コースに比べると多くあります。そうした中で、やっとの思いで海運会社に学生を就職させているというのが実感です。多くの海運会社は、苦しい経営状況の中で新卒者の採用努力を続けてきています。そのため、採用する人材に求める能力や人格、そして人間力はとても高いレベルにあり、それに応えるべく学校と学生の努力が不足していることも痛感しています。学生諸君には、できるだけ早い時期から希望する職業に就くためには、今何をすべきか、何をしなければならぬのかを常に考え、今すぐに実行する努力を続けて欲しいと思います。就職活動が目前に迫った時にはもう手遅れです。1日も早く、そのことに気づき自己を磨いて下さい。

商船学科・機関コースの
就職・進学状況など



商船学科・機関コース主任

伊藤 友仁

平成24年9月の機関コース卒業者は13名で、進路の内訳は11名が就職、2名が大学進学です。就職者のうち、海上就職が8名(外航船舶社4名、内航船舶社等4名)、陸上就職が3名でした。

今年度の機関コース卒業者は、半数以上が上級の海技士(2級または1級の筆記)合格者で、当初その大半が外航船舶社を希望しましたが、それを達成できなかつた者も有りました。一方、陸上企業への就職は、OBが在籍する堅実な会社を選んだことが特徴でした。

今年度の機関コースの卒業生で、海技試験で比較優位な状況にあっても希望した外航船舶社に合格できないケースがあつたことは、海運界の状況変化が一つの理由でしょう。海運企業からの求人数は減少していませんが、採用人数はかなり少なくなつたと思われまふ。その結果、同じ海技士資格を有する商船系の大学生と競う場合が多くなりました。このような状況は次年度以降も続くことが予想され、採用内定を勝ち取るためには次の事が必要です。

海上、陸上とも就職のためにすべきことはいろいろあります。まず、1年生の時から授業をまじめに受け、基礎学力を少しでも多く身につけることです。これは、採用試験(面接試験、学力試験、SPI、適正検査、作文等々)で必ず役立ちます。高学年では、日頃から新聞やニュースを見て、教養を高める努力が必要です。また、英語のTOEICスコアは高専一般の目標値(400以上)を目指すべきです。その他、礼儀や言葉づかいを含むコミュニケーションの基本を日頃から身につけておく必要があります。勿論、健康で明るく元気であることが最も大切ということは言うまでもありません。

就職・進学



電子機械工学科長

桐山 和彦

平成24年度の電子機械工学科の学生(現5年生28名)の進路は、進学6名、就職22名で、平成24年9月14日にて全て決定致しました。進学については、電気通信大学1名、豊橋技術科学大学1名、本校専攻科4名となりました。就職については、中部電力、出光興産、日本たばこ産業等の大企業に12名、菊川鉄工所、オムロンフィールドエンジニアリング、三菱重工エンジニアリング等の中堅企業に7名、フォーラムエンジニアリング、ムラテックCCSおよびテラテックの中小企業に3名となつており、依然大企業指向の強い結果となりました。今回、学生の応募した企業は全部で42社で、1人の学生が応募した企業は、最大で5社、平均1.9社でした。また、1人当りの内々定した企業数(合格比率)は、最大で1、平均0.6となりました。合格比率1.0以上の学生(すなわち第1志望合格者)は10名で、第1志望合格率は40%となっています。本年度の採用のポイントは、依然人物重視の姿勢が強かつたことです。特に重要視された点は、応募した企業に対して関心・興味を持っていること、そして対人関係、相互理解および良好なコミュニケーションです。企業が希望する分野は機械系出身者が圧倒的に多く、機械系6、電気系3、その他1の割合でした。本年度の就職活動において、昨年度から実施した学内における会社説明会および会社訪問の積極的な励行に一定の効果認められたことを踏まえ、来年度(平成25年度)も4年生の後期から実質的に就職活動を開始しました。既に現4年生は希望企業の研究および選定作業に入っています。来年度の目標も昨年同様、全員が第1希望の進路先に進むことです。この目標に向けて教職員一丸となって対処していきたいと思ひます。

制御情報工学科の進級・進学状況



制御情報工学科長

榎本 隆二

昨年度は東日本大震災の影響により、就活スケジュールに若干の乱れがありました。学校推薦による書類提出期限のピークは4月13日(金)でした。5月末日までに10名、6月末には17名の内々定が決定しました。その後、残りの4名も順次決定し、学校経由での就職希望者全員21名の内定が決まっています。

本年度は世界経済の先行き不安から、高専本科で就職先を決めようという高専生が全国的に多く激戦でした。例えば、インフラ系企業(電力・ガス・運輸業界等)では、人物・学力の両方を厳しくチェックされました。本格的な専門試験が課されるほか、面接でも学生時代に何をがんばってやってきたかなど、事細かに問いただされます。合格した学生(関西電力、JR東海、中部電力、東邦ガス)は人柄・指導力・学力共に十分な力を持っており、勉強だけではなくクラブ活動や学生会活動も積極的に取り組んできた実績が評価されて激戦を制したものとされます。

今年度はプログラミング系・システム系の職種での採用が多く、NTT・PCコミュニケーションズやイーウェル、ミラクル・リナックスなどの企業で新規での内々定をいただきました。これらの会社では、本校でのシステム開発実績や経験を問われます。下級生は創造実験や各種コンテスト等に楽しく積極的に立ち向かって行くことよと思ひます。自分の経験を「いきいきと語る」ことができるためには、この「楽しく」という条件がかなり重要となってきます。このほか本年度は東芝産業機器製造からも初めての内々定をいただきました。

一方、進学は本校専攻科、豊橋技術科学大学、電気通信大学、金沢大学に13名が合格しています。また、2名の学生が公務員試験合格を目指して進学先を選択中です。10月からは現4年生に対する進路指導が始まっています。すでに、来年4月からの採用試験の案内・相談に来校される企業の採用担当者の方が増えておりまして、12月からは求人票が本格的に届くと思ひます。本校のOBを中心とする企業セミナーも12月から開始されます。下級生にも開放されますから、積極的に先輩の話聞きに来て下さい。

専攻科の就職進学状況

〜 未来志向の技術者を目指して 〜



専攻科長

坂牧 孝規

平成25年度採用の専攻科の就職は6月4日に就職希望者全員の内定が決まり、進学についても全員志望の大学院に合格できました。良好な就職進学状況を支える背景には、関係教員の熱心な指導に加えて、学生の早い時期からの「誰かがやってくれるのではなく自らやる」という意識にあつたと思ひます。

具体的な就職先は、海事システム学専攻が旭タンカー(株)、三越伊勢丹ビルマネジメント、生産システム工学専攻がメタウォーター(株)、NTTファシリティーズ(株)、NTTネオメイト、NECフィールディング(株)、サントリープログラックス(株)、旭電器工業(株)、エム・システム技研、エフ・ピー・ツール(株)です。進学先は、生産システム工学専攻が九州大学大学院、奈良先端科学技術大学院大学、豊橋技術科学大学院(2名)です。

平成26年度の進路指導については、インターンシップの指導と連携する形で、企業が求める人間像、リーダシップ、国際性などを踏まえたエントリーシートへの書き方などの指導を始めています。しかし、大切なことは「他のものでは代替えのきかない自立した技術者」が求められていることに早く気づき、目標とする技術者像を自分の言葉で表現できるようにすることです。

学生には、技術者として社会に出るといふことは、自ら設計開発した技術・製品が、10年、20年と長い時を経て、企業、市場、社会の中で生き続け、また社会標準となるなどして評価され続けることを忘れないでほしいと思ひます。これは技術者としての醍醐味でもあります。そのためにはTechnology, Engineering, Science, Philosophyの視点で、ダイナミックに物事を考える能力が必要です。技術が新たな文化を創る時、豊かな社会が実現できると言っても過言ではありません。専攻科が、未来志向の技術者となるきっかけになることを願っています。

平成23年度卒業生進路先一覧(順不同)

平成24年3月5日現在

商船学科

●就職先

川崎汽船(株)、(株)商船三井、新和海運(株)、飯野海運(株)、コスモ海運(株)、旭タンカー(株)、乾汽船(株)、商船三井フェリー(株)、津軽海峡フェリー(株)、海洋技術開発(株)、第一中央汽船(株)、福寿企業(株)、川崎近海汽船(株)、ワールドマリン(株)、ヤンマーエンジニアリング(株)、ヤンマー船用システム(株)、ヤンマーエネルギーシステム(株)、中部増成機械工業(株)、ケイラインエンジニアリング(株)

●進学先

神戸大学 海事科学部、東京海洋大学 海洋工学部、鳥羽商船高専専攻科(海事)

●その他

外航日本人船員確保・育成スキーム

電子機械工学科

●就職先

ソレックス(株)、(株)沖電気カスタマアドテック、東海旅客鉄道(株)、森永乳業(株) 中京工場、日東電工(株) 豊橋事業所、パナソニック電工(株)、(株)日立ビルシステム、中部電力(株)、(株)エヌ・ティ・ティ・ネオメイト、ノリタケ伊勢電子(株)、旭ダイヤモンド工業(株) 三重工場、東ソー(株) 四日市事業所、(株)東芝、出光興産(株)、エフ・ピー・ツール(株)、(株)マツダE&T、(株)カンセツ、日本自動車(株)、ユニバーサル造船(株)、安川エンジニアリング(株)、(株)アルメックス、(株)フォーラムエンジニアリング

●進学先

豊橋技術科学大学、鳥羽商船高専専攻科(生産)

制御情報工学科

●就職先

東海旅客鉄道(株)、中部電力(株)、(株)エヌ・ティ・ティ・ネオメイト、東ソー(株) 四日市事業所、日本自動車(株)、オムロンフィールドエンジニアリング(株)、(株)松阪鉄工所、東芝エレベーター(株)、森永乳業(株)、(株)コスモス・コーポレーション、中部テレコミュニケーション(株)、(株)NTTファシリティーズ、アイシン精機(株)、京セラミタ(株) 玉城工場、(株)BEX、(有)岡村、(株)メイテックフィルダース

●進学先

大阪大学、豊橋技術科学大学、専門学校、鳥羽商船高専専攻科(生産)

平成23年度専攻科修了生進路先一覧(順不同)

平成24年3月5日現在

海事システム工学専攻科

●就職先

JX日鉱日石タンカー(株)、(株)マスカリ

●その他

外航日本人船員確保・育成スキーム

生産システム工学専攻科

●就職先

富士電機ホールディングス(株)、オムロンフィールドエンジニアリング(株)、NECネットエスアイ・エンジニアリング(株)、(株)前川製作所、(株)エヌ・ティ・ティ・ネオメイト、日東電工(株) 龜山事業所、

旭化成(株)、DIC(株)、菱電工機エンジニアリング(株)、ユニバーサル造船(株)、アイシン精機(株)、リコーテクノシステムズ(株)、メタウォーター(株)

●進学先

豊橋技術科学大学大学院



国際交流

SMA学生による鳥羽丸トレーニング

国際交流推進室長 石田 邦光

すでにご承知の通り、本校ではシンガポール・ポリテクニク（以下SPと略す）のシンガポール・マリタイム・アカデミー（以下SMAと略す）との学術交流協定のもと、SMAが主催するMEL (Maritime Experiential Learning) CAMP (年3回3、7、10月に実施) に学生を派遣しています。しかしながら、これまでにSMAから学生や教員を本校に招いたことはなく、一方通行の交流でした。

そうした状況を改善したいと思案してきた中で、一番のネックはやはり費用です。そこで、本年度は日本学生支援機構 (JASSO) の学生交流支援制度に申請し、SMA学生への奨学金を確保することで、実施できることになりました。SMAには、本校の学生と同様、航海士や機関士を目指すコースを持っていますし、海運業の経営を学ぶコースもあります。しかしながら、SMAには「鳥羽丸」のような練習船がありません。そこで、練習船「鳥羽丸」をできるだけ活用した研修を立案しました。SMAからの参加学生は9名 (男子6、女子3) で引率教員1名です。本校としては、鳥羽丸の活用もさることながら、学生間の交流も研修のコアに位置づけました。このため、サポート学生を募り、MELクルーズに行ったことある者、行くことが決まっている者、そして英語キャンプなどの海外研修の経験がある者から9名を選抜しました。サポート学生は生産2年1名 (男子)、制御情報工学科4年2名 (女子)、商船学科4年1名 (男子)、商船学科3年5名 (男子3、女子2) です。実施期間は9月12日～9月18日で、主なプログラムは以下の通りです。鳥羽市長表敬訪問、歓迎夕食会、伊良湖水道見学、ワークショップ (母校紹介、各国の紹介、各国の海運、各国の海上交通、東北大震災について)、カッター訓練、航海／機関当直、夜航海及び錨泊、フィールドワーク、ユニバーサル造船見学、リニア鉄道館見学、名古屋城見学です。

9月12日から9月16日までは、SMAの学生・教員、そしてサポート学生も全員が練習船「鳥羽丸」に宿泊しました。そして、航海実習やフィールドワーク、そして企業見学等といったすべてのプログラムは本校の学生と共に



ってもらいました。また、ワークショップにおける発表も、すべて英語で行いました。

本校では、留学生以外で外国からの学生を研修等で受け入れた実績が無く初めての試みであり、すべてのプログラムが手探り状態でした。しかしながら、本校のサポート学生も生産2年のスチューデント・リーダーを中心に一生懸命SMAの学生の面倒を見てくれました。両校の学生にとっては、非常に充実した1週間であったと確信していますし、帰国したSMAの学生や引率の教員からはそうした便りを頂いております。

最後になりますが、本プログラムの実施に当たっては奨学後援会からのご支援をいただきましたことに感謝申し上げますと共に、計画から実施までご尽力いただきました関係教職員各位に改めてお礼申し上げます。



平成23年3月専攻科生産システム工学修了

東京工業大学大学院 杉本 真佐樹

大学院での研究

私は大学院で議論解析について研究しています。議論解析とは、議論の発言記録から、話題の推移、対立する論証議論スキル、発言者ごとの役割などを明確化する事です。

近年、裁判記録の録画・録音や自動文章化など裁判記録のデジタル化の流れがあります。しかし、このような議論記録は膨大であるため概要を把握するだけでも困難です。

そこで私の研究では、議論記録から議論構造を抽出し、解析するシステムの開発を行っています。問題解決のアプローチとして、まず発言中に出現するアイテムの共起性解析を行います。アイテムとは、発言内の単語・文法といった言語情報と、発言者の表情・身振りといった非言語情報を指します。次に、共起度の高いアイテム同士にリンクを張ることでグラフを作成します。ある話題に出現したアイテムはグラフ上では密集しているため、話題の抽出が可能となります。また、話題の移り変わりを見ていくことで議論の流れや、発言者の隠れた意図(本当に言いたかったこと)の発見へと繋がります。

来年の4月からは就職して社会人になりますので、研究活動だけでなく、様々な活動に参加し、残りわずかな学生生活を満喫しようと思えます。



平成22年3月電子機械工学科卒業

東京大学工学部電子情報工学科
コンピュータ・ネットワーク専攻

PHAM HUY HOANG

(フナム フィ ホアン)

大学の研究

私は2010年3月に鳥羽商船高等専門学校・電子機械工学科を卒業し、東京大学工学部電子情報工学科に進学しました。私は電子機械工学科から、コンピュータ・ネットワークを専攻する研究室に入ったので、大学では高専で勉強した知識をより深く勉強する以外に、情報系に関する新しい専門知識も学んでいます。現在、私は人工生命に関するテーマを研究し、機械に生物のような行動を行わせる研究をしており、分析的な方法に代わって合成的な研究手法を用いて生命現象を探索します。合成生物は生物の幅広い分野を統合して生命をより全体から理解しようとする学問です。近年、科学と工学の融合が進むにつれ、新しい生命機能、生命システムをデザインして組み立てる新しい学問分野も含むようになりました。合成生物は工学的手



法を用いて新たな生態系を人工的に創ることを目的としており、より工学に近い学問です。生命のような複雑な現象をコンピュータでモデル化することは、生物の振る舞いを的確に予測・制御でき、また、それを利用して様々な社会活動に役立てることも出来ます。現在進化計算を用いて発振特性を示す合成生物の遺伝子回路を探索し、最適化することを目標に研究しています。

平成23年3月専攻科生産システム工学専攻修了

東京電機大学大学院 理工学研究科
修士課程2年 土井根 礼音

世界よりも先を目指して

私は鳥羽商船高等専門学校専攻科生産システム工学専攻を修了後、東京電機大学大学院に進学しました。所属研究室は、「生きることにやさしい技術を求めて」をモットーとし、医用工学の分野である人工臓器、医療支援機器、医療材料など、最先端の研究に取り組んでいます。

私の研究テーマは、「小型船舶乗船者の疲労メカニズムの解明」であり、鳥羽商船高等専門学校の先生方と共同研究を行っています。研究室には、お花見や合宿、コンパ等の楽しいイベントも多く、私は仲間とすぐに打ち解けることが出来ました。大学院に進学して驚いたのは、試行錯誤し身につけた技術を基に、指導の先生方と議論し、悩みながらも必死に研究に取り組む学生の姿でした。海外で学会発表をする学生も多く、世界レベルの研究環境は、自ら考え、自分自身の壁を超えて、常に最先端を求めることの大切さを私に教えてくれました。

研究は、他に誰もやっていない事を達成しようとする

るため苦しいことも多いですが、その先にある「成長」を目指し、私はこれからも取り組んでいきたいと思っています。私は博士の学位取得を目指し、来年度よりさらに進学しますが、向上心を忘れずに前進し続けていきたいと思っています。



医用工学実験室で大学院生の仲間と筆者（手前）

研究内容

平成24年3月専攻科生産システム工学専攻修了
豊橋技術科学大学大学院
工学研究科 博士前期課程
情報・智能工学専攻1年 **岩本 桂**

私は昨年度本校の専攻科を修了し、現在、豊橋技術科学大学の大学院に在籍しています。大学院では画像処理によるLED照明の制御について研究を行なっています。

近年、省エネルギーかつ長寿命なLED照明が急速に普及してきています。しかしLEDは単体での発光量が従来の光源に比べ少ないため、広い室内空間では多数の光源が用いられています。LEDは多段階の調光ができ、光源数の増加によって制御の自由度が高まるはずなのですが、そのための扱いやすいインタフェースが存在しないので、潜在的に多機能な調光機能を十分に発揮できていません。

そこで私は、LED照明の制御用インタフェースに画像処理を用いることで前述の問題を解決しようとしています。具体的には、部屋を撮影した画像に対してユーザが最も明るくしたい場所を指定するだけで、多数のLED照明を連動させて部屋全体を調光するシステムを開発しています。その際に、独自の最適化手法を用いて省エネの性能も同時に実現しています。今後は、スマートフォンや監視カメラ等を用いて実用化を進めていきます。さらに現在の調光制御方法を、外光も考慮できる様に機能を拡張していく予定です。



電気推進船の研究

平成22年9月商船学科機関コース卒業
東京海洋大学 **濱口 領平**

現在、私は東京海洋大学、海洋工学部・海洋電子機械工学科機関システム工学コース4学年に在籍しています。研究室は動力エネルギー研究室に所属しており、世界初の急速充電対応リチウムイオン2次電池搭載電気推進船「らいちよう」について研究しています。

電池推進船とは、その名の通り電池からの電力でモーターを駆動し航行する船舶です。今までの電池推進船では、鉛蓄電池などが使用されており充電に何時間もかかっていましたが、急速充電を使うことで、約30分程度で80%充電することができます。また、端子電圧、エネルギー密度が高く、内部抵抗が小さいため大電流を流すことができます。今までの電池推進船の出力では、荒天の際に使用することができませんでしたが、この「らいちよう」なら航行することができます。私は、電池推進船の放電特性について、詳しく研究しています。特に、船舶に実際に使用した際の特性を調べています。

現在の研究で、鳥羽商船で学んだことが役立っており、基礎勉強の大切さを感じています。



学生活動の紹介

海学祭を終えて



海学祭実行委員長
制御情報工学科5年
森井 寛喜

今年で47回目となる鳥羽商船海学祭が終わりました。今回初めて実行委員長という大役を務めさせて頂いて不安やプレッシャーもありましたが、無事海学祭を行うことができたのでホッとしています。前夜祭は雨に見舞われ、海学祭を運営する学生会、実行委員また模擬店出店者もなかなか思うように運営できませんでした。教員、学生の助けもあり、なんとか臨時の対処が出来たのではないかと思います。本祭当日は打って変わってよい天気となり、保護者の皆さんや他校の学生の皆さんなど一般の方にもたくさん来ていただき、大変盛り上がった海学祭になったと思います。

さて、今年度の海学祭のテーマは、鳥羽商船の海学祭がこんなに楽しいわけがない。でした。海学祭パンフレットにも書きましたが、このテーマには鳥羽商船の海学祭を信じられない位楽しい祭にしようという意味が込められています。果たして今年の海学祭が信じられない位楽しいものになったのでしょうか。私の率直な感想ではもっともっと楽しい海学祭に出来たなと感じました。

しました。来年の海学祭では今年以上に楽しく、オリジナリティ溢れる海学祭にして欲しいと思います。

最後に、未熟な私をサポートしてくださった教員、学生の皆さんに感謝申し上げます。ありがとうございました。



制御情報工学科4年
鳥山 新

プロコンに参加しました

福岡県大牟田市で開催された全国高専プログラミングコンテストの課題部門に参加しました。参加したきっかけは、4年生の前期の創造実験でコンピを組んでいた藤原君に誘われたからです。創造実験でもArduinoを用いたプログラミングをテーマとしていたので、何となく気楽に受けてしまいました。しかし、書類審査による予選を通過して本選に出場することが決まった瞬間に「夏休み返上で登校すること」という指示を受け、夏休み中はバイトもせずにチームのみんなと協力して作業に取り組みました。

システム開発は大変でしたが、研究室の先輩や技術職員の方々がサポートしてくれたので、なんとか完成させることができました。10月に入ってからは、授業終了後に作業を行うため、遅い時には23時過ぎまで学校に残るときもあり大変でした。

本選では、全国の高専のチームが出展する作品を見て、自分とはるかに差があると感じま

た。上位入賞はならなかったものの、企業賞をいただくことができて（Androidタブレットが副賞だったこともあり）素直にうれしかったです。

プロコンに参加して、とても大変な毎日でしたが、自分自身にとって、とても良い経験になりました。



最後のロボコン



電子機械工学科5年
山際 秀俊

私は幼少期からロボコンをよく見ていました。テレビの中のロボットを見ていただけで、わくわくし夢中になりました。そして、自分で考えたロボットを作り、参加したくなりました。鳥羽商船への入学もロボコンが理由です。

1年から4年間は同好会に所属し、ロボコンに参加してきました。ロボコンへの参加は実



現されたものの、あまり良い結果は残せず、実際のロボット製作の難しさを知りました。5年生では卒業研究として私にとって最後のロボコンに臨みました。そんな今年の大会には、全国大会出場を目指して卒研メンバーを率いました。全国大会出場は推薦チームに選ばれるべく、投球機構に遠心力を使い、他のチームとは違ったアイデアで勝負しました。私以外はロボコン初参加の卒研メンバーをまとめるのは大変でしたが、ロボットを完成させることができました。結果は準優勝で、全国大会への推薦も受けることができました。その時の喜びは今も鮮明に覚えています。

私はアイデアを一から考えることの難しさ、試行錯誤して問題を解決する大変さ、チームワークの大切さについてロボコンを通じて学びました。ロボコンは私にとって生涯忘れることのできない経験になりました。

カッター部



鳥羽商船カッター部
商船学科3年
小阪 晃育

私たちカッター部は、3年生以下38名が来年、大島商船で行われる高専大会に向けて日々練習に取り組んでいます。

カッターのレースは、一艇に漕ぎ手12人と、艇指揮、艇長の計14人が乗り、片道500メートル往復1000メートル、もしくは、片道750メートル往復1500メートルの距離でスタート地点から、回頭してスタート地点に戻ってくるまでの、艇の速さを競う競技です。

今年の7月8日に弓削商船で行われた高専大会では、見事優勝し、大会タイ記録の六連覇することができました。しかし、4年生が引退された、私たちの代の初戦となった10月28日の東海大会では、館山海上技術学校に敗れ、4位という悔しい結果に終わってしまいました。この結果を踏まえ、来年の春の東海大会、そして高専大会では悔いの残らない漕ぎをして大会新記録の7連覇を歴代最速タイムで果たすために、今まで以上に意識を高く持ち、練習に取り組もうと思っています。



ぎふ清流国体に出場して



制御情報工学科3年
濱田 和真

ぎふ清流国体のシーホッパー級スモールリグ国体選手に決まった夏休み、私は同じヨット部で国体選手に選ばれた片桐君、林君と一緒に、津のヨットハーバーで週四日合宿をさせてもらっていました。当初は国体選手としての意識が足りなかったことや技術的に未熟だったのもあり、三重県の監督からもハーバーに来てくださった方々からも、たくさんの叱咤、指導をいただきました。

そのような合宿を通して国体当日を迎え、私は今まで数々の指導してくださった方々に感謝しつつ、自分が持っている技術をすべて出そうと意気込んでいました。今回の大会では台風の影響で強風が吹いていて、体重が少ない私には不利な状況でし



たが、それでも一つでも順位を上げようと最後まであきらめませんでした。しかし結果は、39艇中34位で終わってしまいました。周りの方々は、お前の体重であそこまで走れたら大したものだと言ってくれましたが、それでも自分にとっては涙が出るほど悔しい結果でした。

このような結果で私の国体は終わりましたが、それでもたくさんの貴重な経験を得た素晴らしい思い出です。この経験を生かして、片桐君、林君とともに今後のヨット部を引っ張ってきたいです。

水泳部



制御情報工学科3年
岩本 知樹

水泳部では、春から夏にかけてはインターハイなどの大会に向けての練習、秋から冬のオフシーズンでは陸上で筋力トレーニングや走りこみなどを行っています。4月～5月はまだ寒いので軽い練習&レクリエーションを行い、6月から7月の頭にかけて段々本格的な練習に入っていきます。

大会が終わった9月～10月は練習とレクリエーションに戻り、泳ぐのに適した温度でなくなった時期から（今年は10月末まで泳いでおりました）筋トレやランニングといった陸上トレーニングに移ります。冬季でも、1か月に1回、鈴鹿市にある「鈴鹿スポーツガーデン」（温水プール付）へ練習に出かけて



高専大会開催中の様子

います。スポーツガーデンはインターハイなどの大会にも使われている施設で、大会そのままの雰囲気練習する事が出来ます。

今年度は鳥羽商船で東海地区の高専大会を実施しました。近年は全国高専大会へも毎年出場しています。部員は11名で、今年度は女子部員も入りゆるい雰囲気と和気藹々とやっております。メンバーは全くの初心者状態から始めた人も数名います。始めてたった数カ月でもコツを掴むと驚異的な成長を遂げる事が出来ます。

水泳は運動神経のない人でも比較的手軽に取り組む事が可能なスポーツで、一度習得すると生涯楽しむ事が出来ます。

今年度後半は、とにかく体を鍛える事を目標に頑張っています。新入部員はいつでも歓迎しておりますので、興味があれば見学に来て下さい。



ソフトテニス部



電子機械工学科3年
奥野 雄也

私達ソフトテニス部は、技術向上のみならず、体力及び精神力の向上を目的に、日々練習に励んでいます。活動時間は週6日で、平日は放課後あたりが暗くなるまで、土曜日は朝から夕方までとっています。

部員達は元気いっぱいである、笑い声が絶えませんが、練習には熱心で自主的に課題を見つけ、また互いに切磋琢磨しながら取り組んでいます。

今年の高専大会の結果は、男子団体5位、女子団体2位でした。個人戦では女子が3位と健闘しました。男子は団体戦も個人戦も満足のいく結果が出せませんでした。来年こそは、良い結果が出せるように、より一層、日々の練習に励んでいきます。

又、女子は成績優秀ですが、部員の人数が少なく、このままでは来年の団体戦に参加するのは



も難しい状態です。女子の新入部員勧誘にも力を入れています。来年の高専大会の目標は男子団体3位以上、個人戦は一人でも多く入賞することです。女子は今年よりも更に上を目指していきます。これらの目標を実現するために、基礎体力の向上、練習の積み重ねはもとより、練習試合の機会も設けて、より実戦的な練習を取り入れていきたいと考えています。

厚生労働大臣感謝状を受けて



制御情報工学科5年
上野 珠あん

私たち学生にとって、ふだんの生活の中で献血をしに行くことは、あまりなじみのない事です。実際に私自身、献血をしたくてもどこに行けばいいかも知らずに生活してきました。そのような方々は、学生に限らず、多くもたくさんいるかと思えます。献血になじみのない学生にも、献血を知ってもらえればと考えて、毎年の献血活動、本学海学祭での献血バス受け入れを行ってきました。昨年は51人の方に献血をしていただくことができました。

そういった毎年の活動に対し、2012年8月8日に行われた第48回献血運動推進全国大会で厚生労働大臣感謝状をいただくことができました。これまでも何度か三重県知事や日本赤十字社より感謝状を受けていますが、今回贈られた感謝状は

その実績が特に優秀で、他の模範と認められる団体と評価された証であり、大変光栄に思っています。当日は、私が学生会の代表として授賞式典に参加しましたが、今年の学生会長だけでなく歴代の方々の成果であることを考えると、身も震える思いでした。この感謝状に恥じないよう、これから海学祭だけでなく普段の生活の中に献血推進活動を実行できるように、また、他の学生にも考えてもらえれば幸いです。



ヨット部のボランティア活動



ヨット部顧問
水野 逸夫

10月7日、8日の両日、ヨット部の顧問と部員、合わせて5名が伊勢市のゴリーキマリンビルでボランティア活動を行いました。主に身体障害者の人のために作られたアクセシビリティというヨットを使用した体験試乗会とヨットレースの運営のお手伝いをしました。

アクセシビリティは非常に安定性の良いヨットで転覆することがなく、誰でも安全に楽し



むことができるヨットです。7日は体験試乗会が実施されました。車椅子の人や小さな子供、お年寄りの人など、70名以上の参加者があり、盛況でした。ヨット部員は棧橋で参加者のヨットへの乗り降りのお手伝いをしたり、救助艇に乗ってヨットを曳航したりなどの活動をしました。8日は県外からの参加者を含め、このヨットの三重県大会レベルの大会が実施されました。好天に恵まれ、充実したレースが展開されました。ヨット部員はレースの運営のためにいろいろなお手伝いをしました。来年の10月には同じ場所でのヨットの全国大会が予定されています。ヨット部の全力をあげて協力したいと考えています。

名古屋港・四日市港 PRRに参加して



商船学科
機関コース4年
山下 諒也

私は去年に引き続き今年も四日市PRR航海と名古屋港PRR航海に参加しました。これらは

本校練習船鳥羽丸を中心に鳥羽商船を紹介し本校志願者の増加を図ることを目的とするものです。今年の8月5日に開催された四日市港の港まつりでは鳥羽丸の一般公開、体験乗船を行いました。非常に暑い中での活動でしたが、ここで開催されたカッターレース大会では強豪チームの多い中、参加者の活躍で鳥羽商船は準優勝することができました。

11月9日から11日までの名古屋港PRR航海では帆船海王丸のSOS三三を、鳥羽丸に乗船して洋上から見ることのできる体験乗船と一般公開を行いました。体験乗船はもちろんのこと、学生によるチャシクばりのおかげもあり、一般公開中の鳥羽丸船内におけるスタンプライヤ、無料の鳥羽丸をバックにした記念撮影はとても好評でした。10日のPRR活動が終了した後は、海王丸を鳥羽商船の実習生である先輩方に案内してもらい、実習中のことについて沢山教えて頂きました。



これらのPRR活動は自分にとっても良い思い出となりました。また、帰りの航海では実習

ではなかなか体験できないような揺れも経験できたので良かったと感じています。

高専制度創設50周年記念式典に参加して



制御情報工学科5年
上野 珠あん

私たち学生会は毎年行われる体育祭、カッター大会そして海学祭の企画・運営を行っています。そんな学生会に興味を持ち、加入したのは1年生の頃で、以来5年間にわたって活動してきましたが、私は先輩にも負けない行動力で、先輩をも巻き込んで学生会を盛り上げてきました。そのことが認められたのでしょうか、今年、学生会会長になることができました。

そして、2012年10月30日に行われた高専制度創設50周年記念式典に、本校の学生を代表して参加することができました。式典では、高専出身の方々がどんな現場でどのように活躍されているかの紹介があり、式典後には名高専の学生代表の方々との交流会などもあり、とても充実した一日を過ごせました。こういった節目の式典などに参加できることは、今までにも、これから先にもない貴重な体験だと感じました。

学生会で5年間頑張ってきた、本当に良かったと思います。私は、今回得た貴重な体験を先輩に伝え、今後の学生会活動に活かしていきたいと思っています。

留学生の声

テーマ

留学の動機

● 自国とは違う外国を実際に見て、機械の技術を学び、外国人といい人間関係を作ることが留学の動機です。(M3) ● 留学して勉強以外にも幅広い人生経験を積みたいと思った。(I4) ● 経済が発展した国で新たなことを経験するのは凄い魅力があります。(M5) ● 日本経済を驚異的に成長させた高い工業技術を身に着けるために留学を決意しました。(I5)

テーマ

カルチャーショック

● 今は食べられませんが、インドネシアでは生ものを食べる習慣がないので、私はカルチャーショックを受けました。(M3) ● 電車の中で寝たり、化粧する人が多いことに驚いた。(I4) ● 日本では皆で一緒に温泉に入るのには驚きました。(M5) ● カルチャーショックかどうか分かりませんが、日本に来たばかりでも、どこの店員さんも本当に優しくしてくれたので驚きました。(I5)

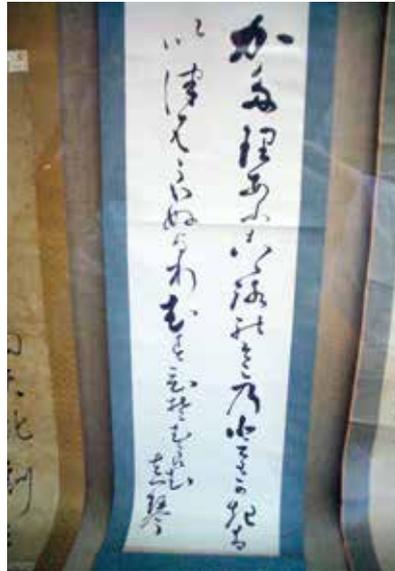
近藤真琴先生の掛軸

電子機械工学科 水野 逸夫

平成24年10月27、28日の両日、弓削商船高専で全国商船高専漕艇大会のヨット競技が開催され、参加しました。ヨットは学校近くの浜都海岸から出艇するので、海岸を歩いてみると「田坂為松顕彰碑」が目にとまりました。大正10年の建立でした。今までこの場所は何回も訪れているのですが、この碑があることに初めて気づきました。何気なく碑の文面を見てびっくり。「・・・近藤塾に学び・・・甲種船長となり・・・海運界で大きな業績をあげた。」と書いてありました。ちよつどのこの原稿の構想を考えていたところに、偶然に近藤先生のお名前に出会い、不思議な暗合を感じました。

さて本題に入ります。校祖、近藤真琴先生の人物像や業績については、本校の「百年史」や「近藤真琴先生伝（昭和12年攻玉社発行）」を読むとよくわかりますので、ここでは詳しくは書きません（本校の図書館で閲覧可）。先生の教育方針は「和魂漢洋才」であり、ご自身は皇漢学の修行をされ、多くの和歌や漢詩を残しておられます。また書道にも才能を発揮され、これらは自筆の掛軸（短冊）として今日に伝えられ、何点かは百周年記念館の二階展示室に掲示されています。

私が、先生の貴重な掛軸に2本も直接関わることができたのは望外の幸せでした。2本とも、



知り合いの古美術商の方の紹介です。一つ目は、平成19年1月に出会った先生自作の和歌です。原文はかな書きですが、意味が良くわかるように漢字を交えて書き直すと次のような作品です。

語り合ふ 心の底の 友垣は 偽らぬより
結びそむらむ

温容で、人格教育に力をそそぎ、「信義」をもつとも重んじた先生らしい作品です。「真琴」は「誠」に通じるものであると感得しました。この作品は同窓会が購入し、現在百周年記念館二階に展示してあります。

二つ目には平成23年7月に出会いました。今

度は漢文の書です。

南陽諸葛廬 西蜀子雲亭 孔子曰 何陋之有

これは、中唐の大詩人、劉禹錫（りゅううしやく）の「陋室銘」という題の漢文の最後の部分です。全文は長いので省略しますが、大意は「自分の家がいかにか小さく狭いものであっても、決して恥じることはない。古来の有名人の庵室に比べることが出来る。孔子もそこに住む人に立派な志や徳があれば、決して陋屋ではないと言っている。」という文章です。これは先生の無欲で格調の高い清澄な心の表明であり、書自体も味わい深いものがあります。この作品は現在、家宝として、自宅に所蔵しています。



工場見学

電子機械工学科・制御情報工学科4年生は、10月17日(水)～19日(金)に工場見学を実施しました。就職活動の一環として、企業における実践的な技術を見聞することによって、技術系の仕事と企業への理解を深めることを目的としている。電子機械工学科は、JR東海リニア・鉄道館、(独)海洋研究開発機構横須賀本部、横浜研究所、ANA機体メンテナンスセンター、制御情報工学科は、三菱電機(株)名古屋製作所、富士通(株)net Community、東芝科学館を見学しました。

独立行政法人国立高等専門学校機構 高等専門学校制度50周年記念式典等

平成24年10月30日(火)に学術総合センター(東京都千代田区)にて、高等専門学校制度50周年記念式典の式典、シンポジウム、祝賀会、学生交流会が行われました。



平成24年度専攻科(海事システム学専攻) 入学式挙行

平成24年度専攻科(海事システム学専攻)入学式が10月1日(月)10時30分から本校専攻科棟マルチメディア教室において挙行されました。藤田校長から励ましの式辞が述べられた後、入学生から、2年間を無駄にすることのないよう全力で取り組んでいきたいとの挨拶がありました。



フィールドワーク

本校では、平成24年10月17日(水)第2学年の学生にフィールドワークを実施しました。教育活動の一環として、社会に対する視野を広めさせることを目的としている。商船学科は、ユニバーサル造船(株)津事業所、電子機械工学科・制御情報工学科は、シャープ(株)亀山工場を見学しました。

鳥羽商船高等専門学校と同窓会との協賛

- 練習船「鳥羽丸」で行く、造船所見学と、故郷の海山川
平成24年8月21日(火)
- 伊勢湾海上交通センター見学と伊良湖岬自然観察
平成24年8月23日(木)



公開講座・出前授業実施



鳥羽商船高専では、本校の専門的、総合的な教育・研究を地域社会に提供し、学校の施設・設備の開放、地域に根ざした学校となることを目的とし、毎年「公開講座」を実施しています。受講対象者は、小・中学生及び一般を対象とし、講座内容は、専門、一般教養、家族の触れ合い教室など、幅広く実施しております。又、「出前授業」として、「ものづくり」を体験する「体験型学習」及び「教養講座」、「実践教育」などの講座を開設することができます。本年実施した講座の内容は次のとおりです。

公開講座

○サイテラランド in 鳥羽商船(小・中学生)

講座名	開催日
手作り太陽電池(中学生)	8月6日(月) 8月7日(火)
LEGOで自動走行ロボットを作ろう(中学生)	8月9日(木)
Wiiリモコンでゲームプログラミング(中学生)	8月10日(金)
NC工作機械でキーホルダーを作ろう(小学生)	8月21日(火)
おもしろ理科実験(中学生)	8月22日(水)
君が船長 船でGo!	8月23日(木)

○秋の公開講座

講座名	開催日
小学生のためのバレーボール教室(小学生・保護者)	10月15日(月) 10月29日(月)

その他の講座

講座名	開催日
みえアカデミックセミナー2012(三重県生涯学習センター)「船舶通信の歴史と現在」「人とロボットとのコミュニケーション」	7月29日(日)

出前授業

○体験型学習(小学生)

講座名	開催日
加茂小学校「LEGOを用いたロボット製作入門」	5月25日(金)
鳥羽小学校「レゴマインドストームNXT」	6月13日(水)
安楽島小学校「風に向かって走れ(ウィンドカー作製)」	7月4日(水)
鳥羽小学校「レゴマインドストームNXT」	9月6日(木)
船越小学校「オリジナルTシャツ・バッグ作成講座」	10月15日(月)
安乗小学校「LEGOを用いたロボット製作入門」	11月8日(木)

○教養講座(中学生)

講座名	開催日
滋賀県草津市立玉川中学校「航海システム論」	7月3日(火)

講座名	開催日
NHK共催 鳥羽・答志島パラダイスツアー(鳥羽商船校内・鳥羽丸見学等)	9月16日(日)
みんなでたのしく遊ぼう! ロボット教室(池上地区青少年健全育成会 小学生・中学生・保護者)	10月27日(土)

編集後記



学校だよりの第77号をお届けいたします。本号では、「進学特集」として本校から大学へ編入学および大学院へ進学した学生に現在の研究内容などを寄稿していただきました。卒業後の進路として、進学を考えている学生の皆さんには大変参考になると思います。また、本年度の就職・進学状況、学生や教職員のさまざまな取り組みや活躍の紹介などの記事を掲載しました。水野教授には、

本校の創設者である近藤真琴先生の掛軸に関する記事を執筆していただきました。表紙に掲載した写真は、夏から秋に行われた「ロボコン全国大会」「海学祭」「商船学科卒業式」と「カッター大会」の風景です。本号の記事を執筆いただいた方々と写真をお寄せいただいた方々には、大変感謝いたします。

(溝口記)